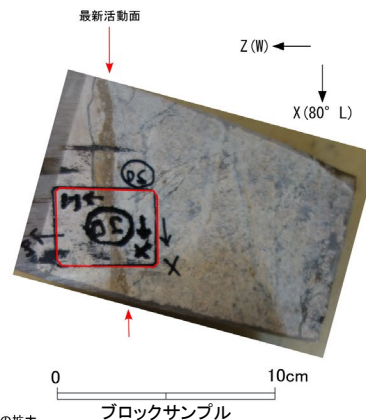
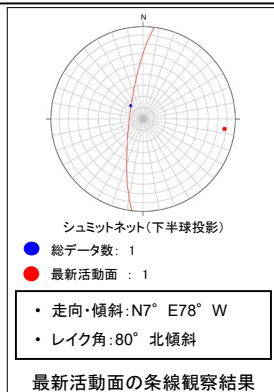


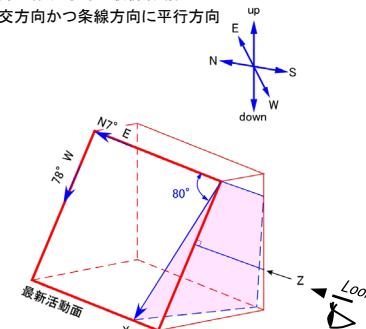
H27-B-2 深度31.15~31.66m 非モデル化破砕部

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度31.29m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



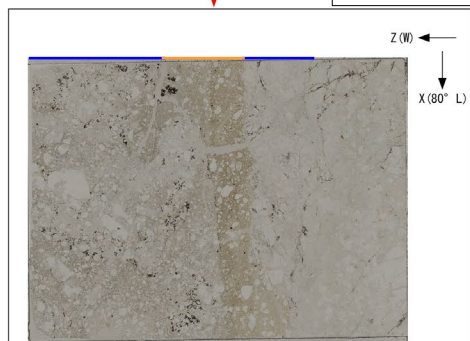
薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



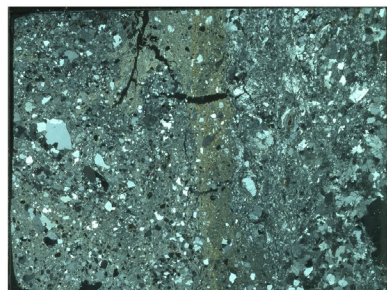
走向・傾斜 N7° E78° W

X: 条線方向(下向きを正とする)

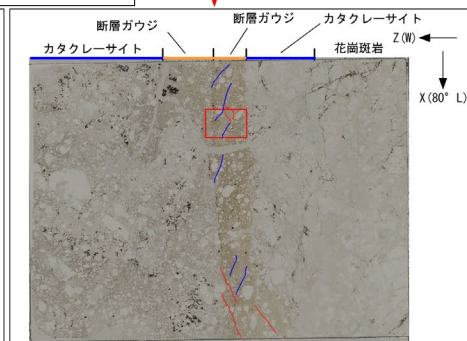
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



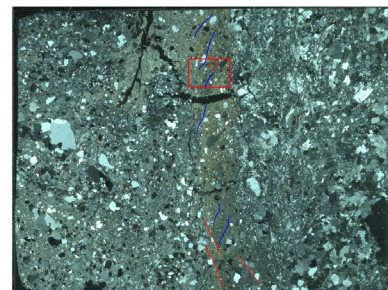
単ニコル



直交ニコル

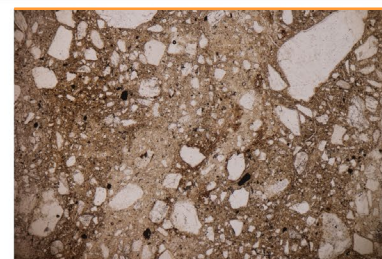


単ニコル

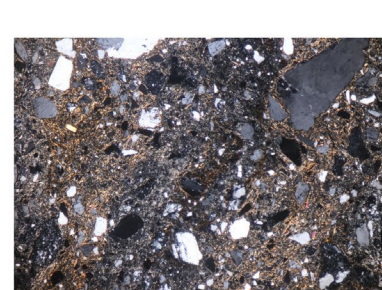


直交ニコル

赤枠内の拡大

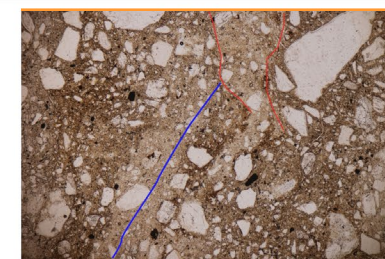


単ニコル

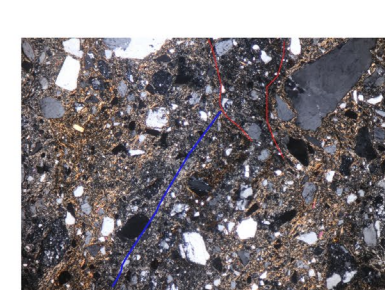


直交ニコル

赤枠内の拡大



単ニコル



直交ニコル

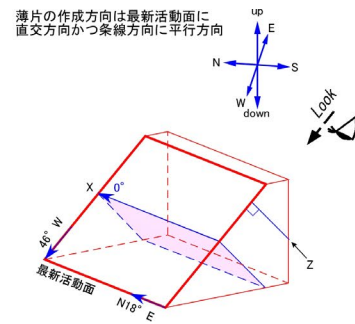
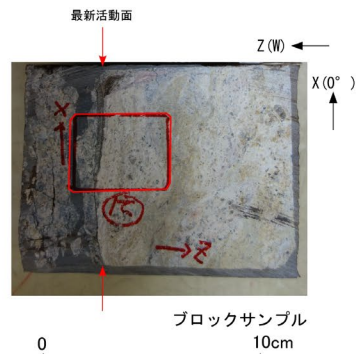
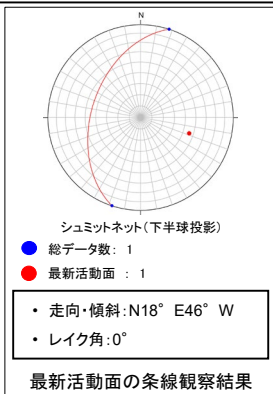
凡例

- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

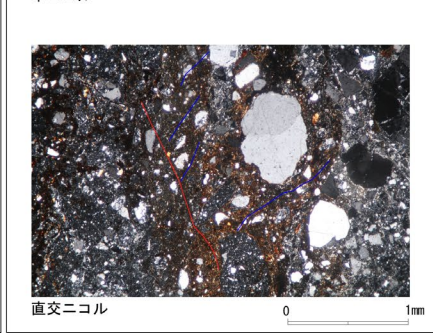
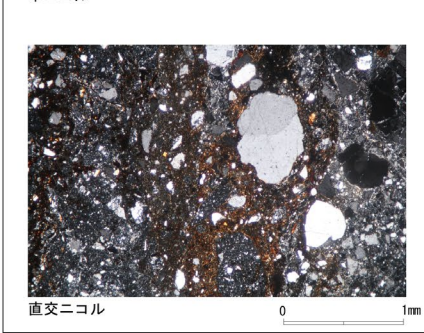
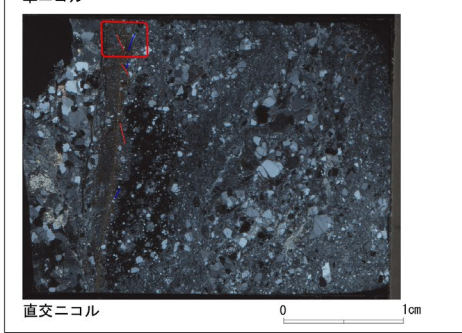
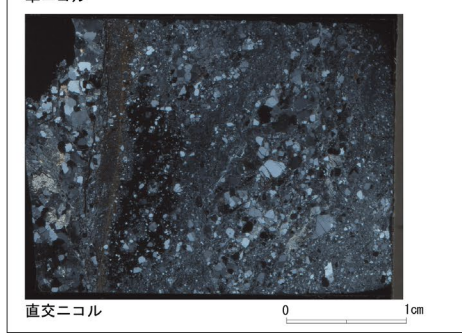
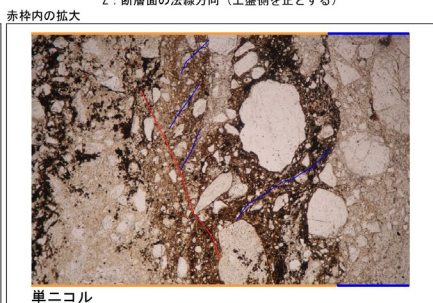
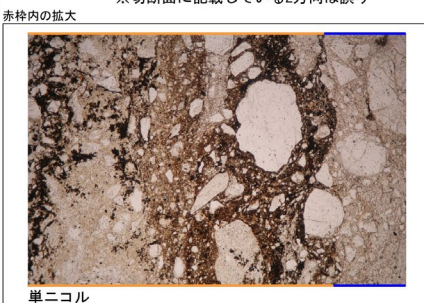
H27-B-2 深度34.37~34.48m 非モデル化破砕部

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度34.37m)の変位センスは、左ずれ成分が卓越する。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)

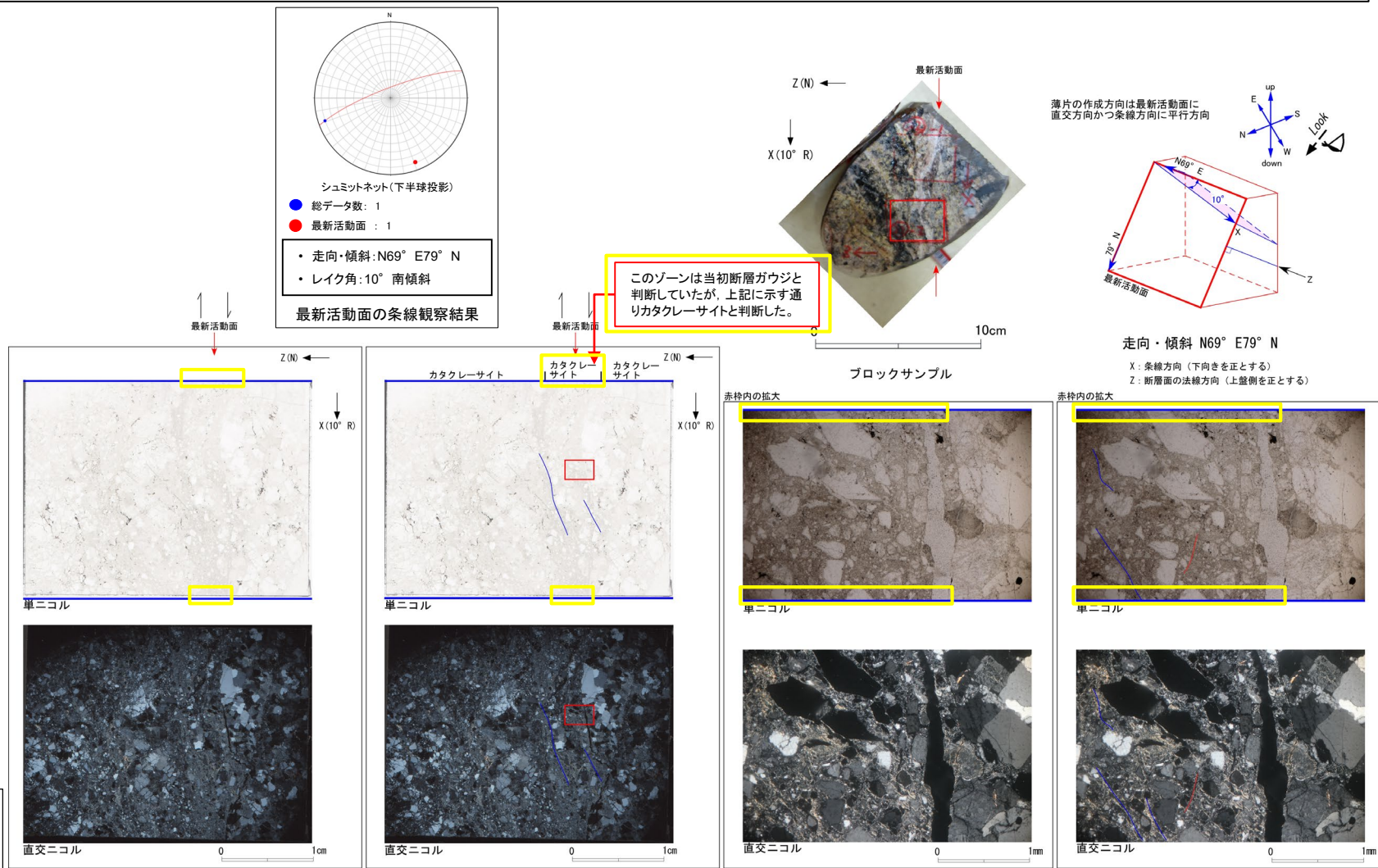


走向・傾斜 N18° E46° W
X: 条線方向(北向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

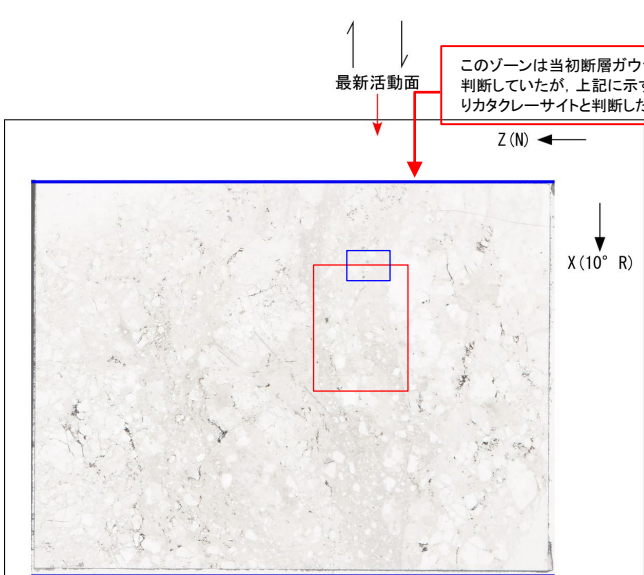
- ・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度35.40m)の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
- ・断層岩区分については、単ニコルで明瞭に区別できるゾーンのうち、破碎部中央のゾーンはより細粒であり、局所的ではあるが粘土鉱物が若干認められることから、断層ガウジと判断していた。(第833回 机上配布資料1)
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施したところ、破碎部中央のゾーンには以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。角礫主体であり、ジグソー状の角礫群が認められる。



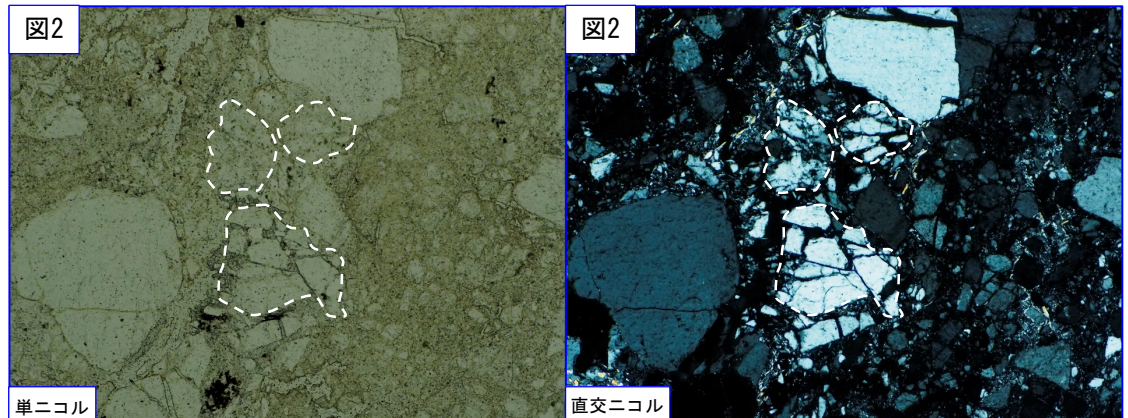
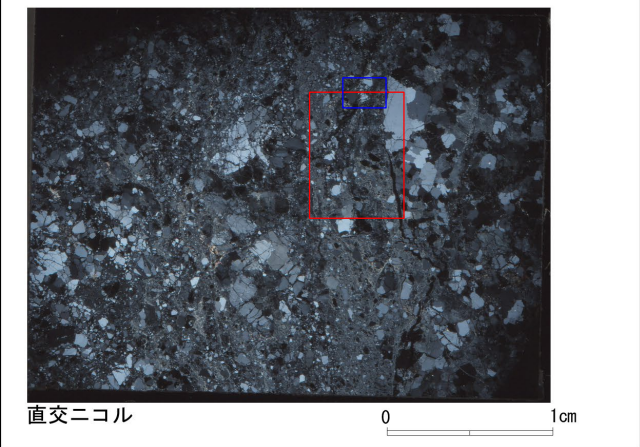
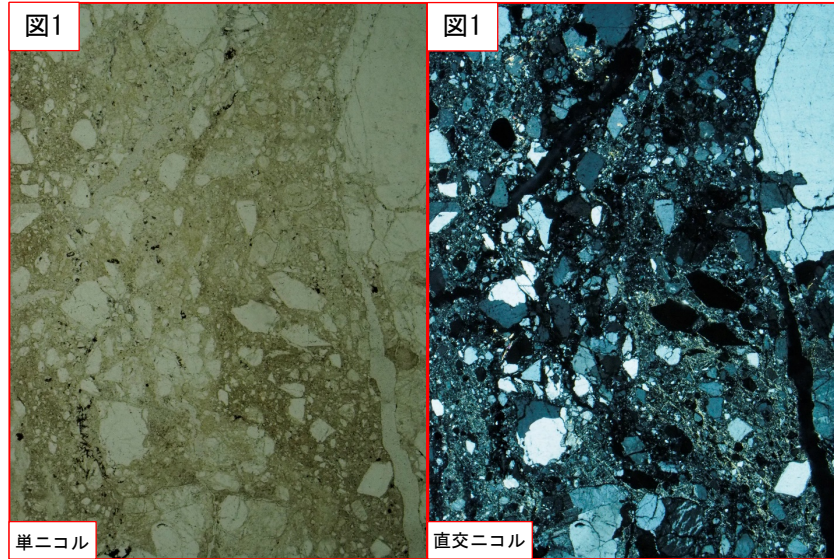
H27-B-2 深度35.36~35.46m 非モデル化破砕部(2/2)

・破砕部中央のゾーンには以下の特徴が認められる。

- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。角礫主体であり、ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



このゾーンは当初断層ガウジと判断していたが、上記に示す通りカタクレーサイトと判断した。



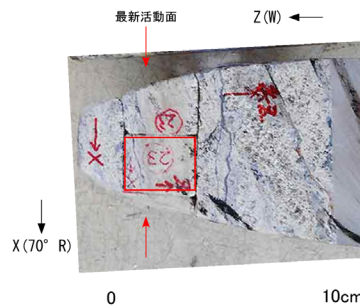
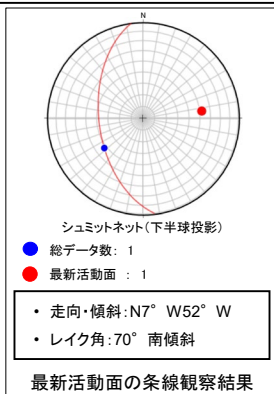
凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト

破線はジグソー状の角礫群示す。

H27-B-2 深度35.68~35.73m 非モデル化破砕部

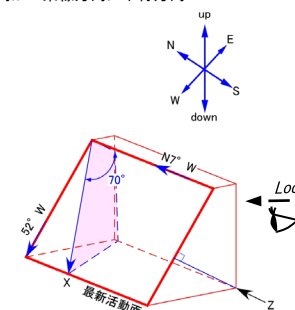
・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度35.73m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



※切断面に記載しているZ方向は誤り。
ブロックサンプル

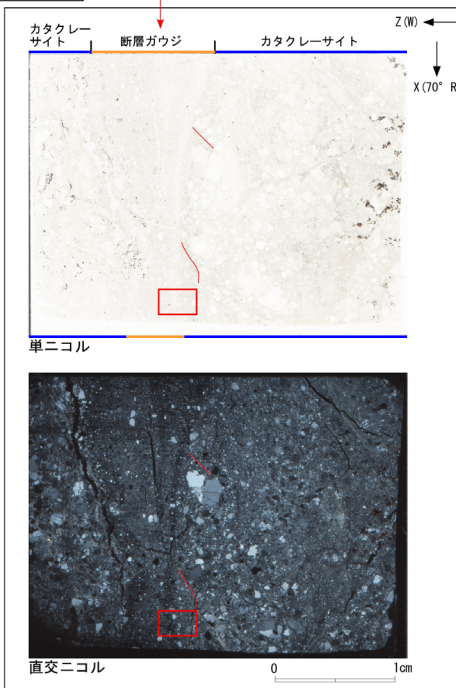
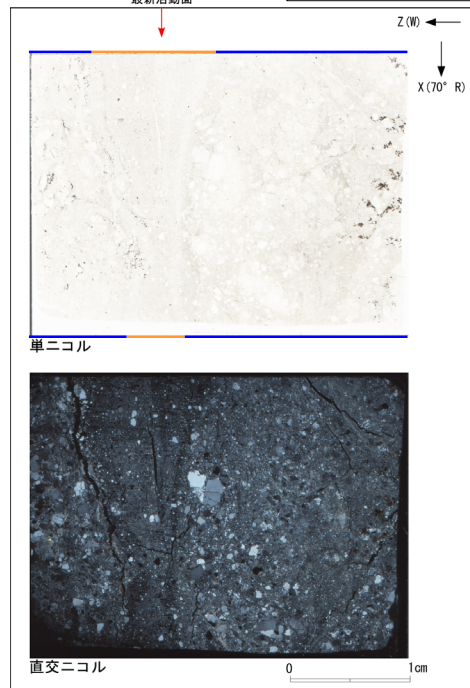
薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



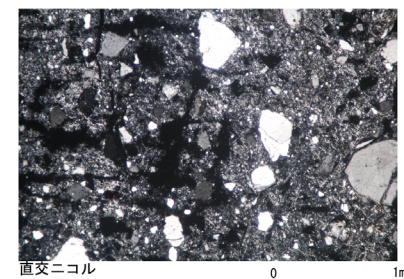
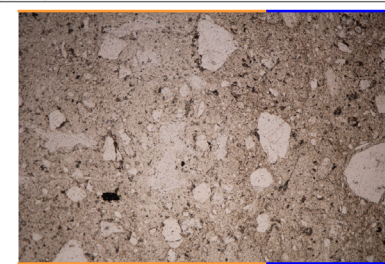
走向・傾斜 N7° W52° W

X:条線方向(下向きを正とする)

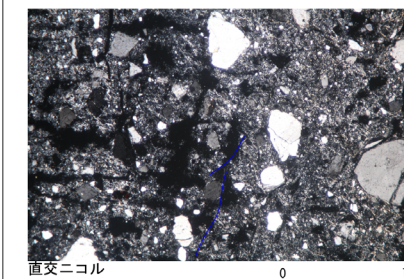
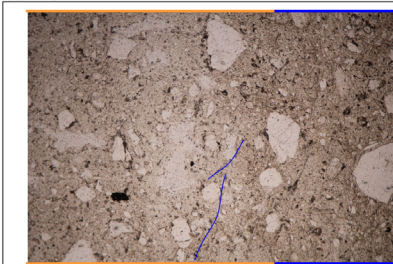
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)



赤枠内の拡大



赤枠内の拡大



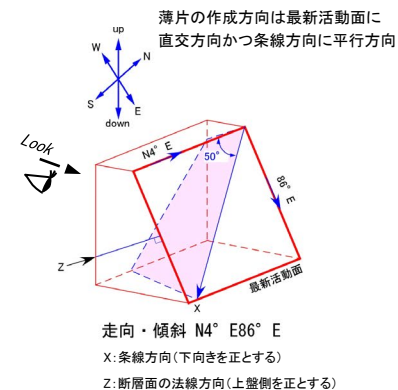
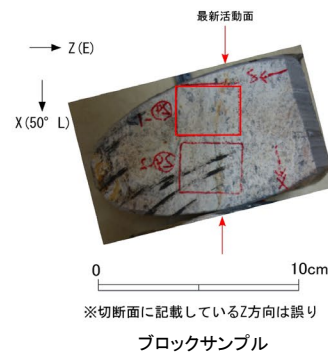
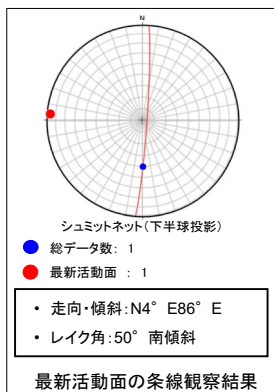
凡例

- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H27-B-2 深度35.92~35.95m 非モデル化破砕部

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度35.92m)の変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が少なく、多様な粒径の岩片・鉱物片を細粒基質中に多く含むことや、一部に鉱物の粒界を横断する破断面が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



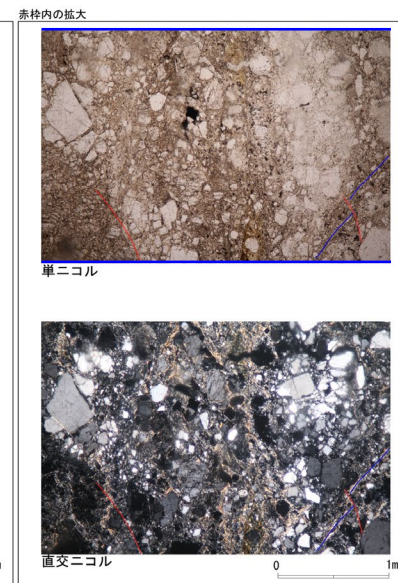
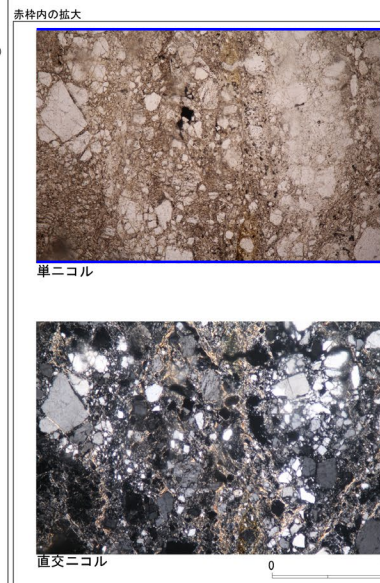
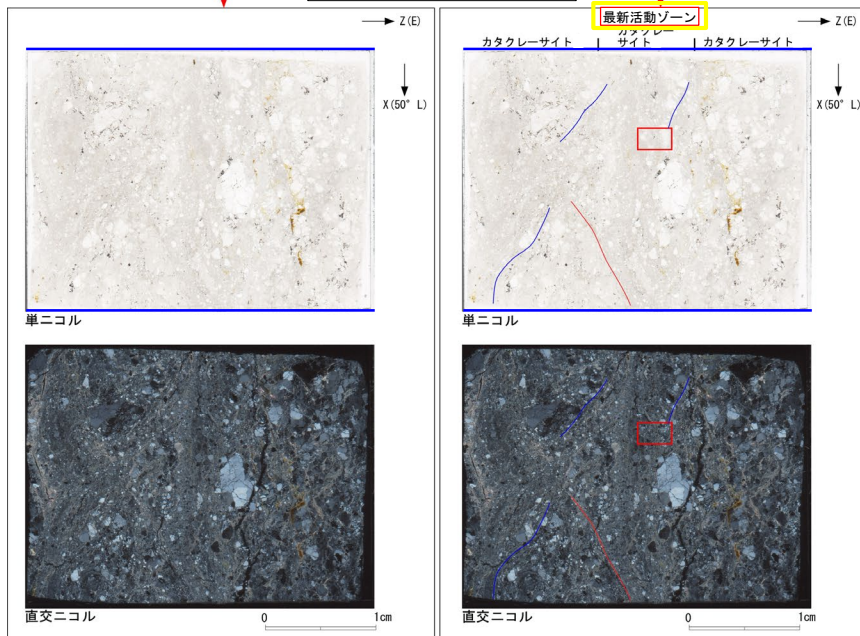
最新活動面の条線観察結果

ブロックサンプル

走向・傾斜 N4° E86° E

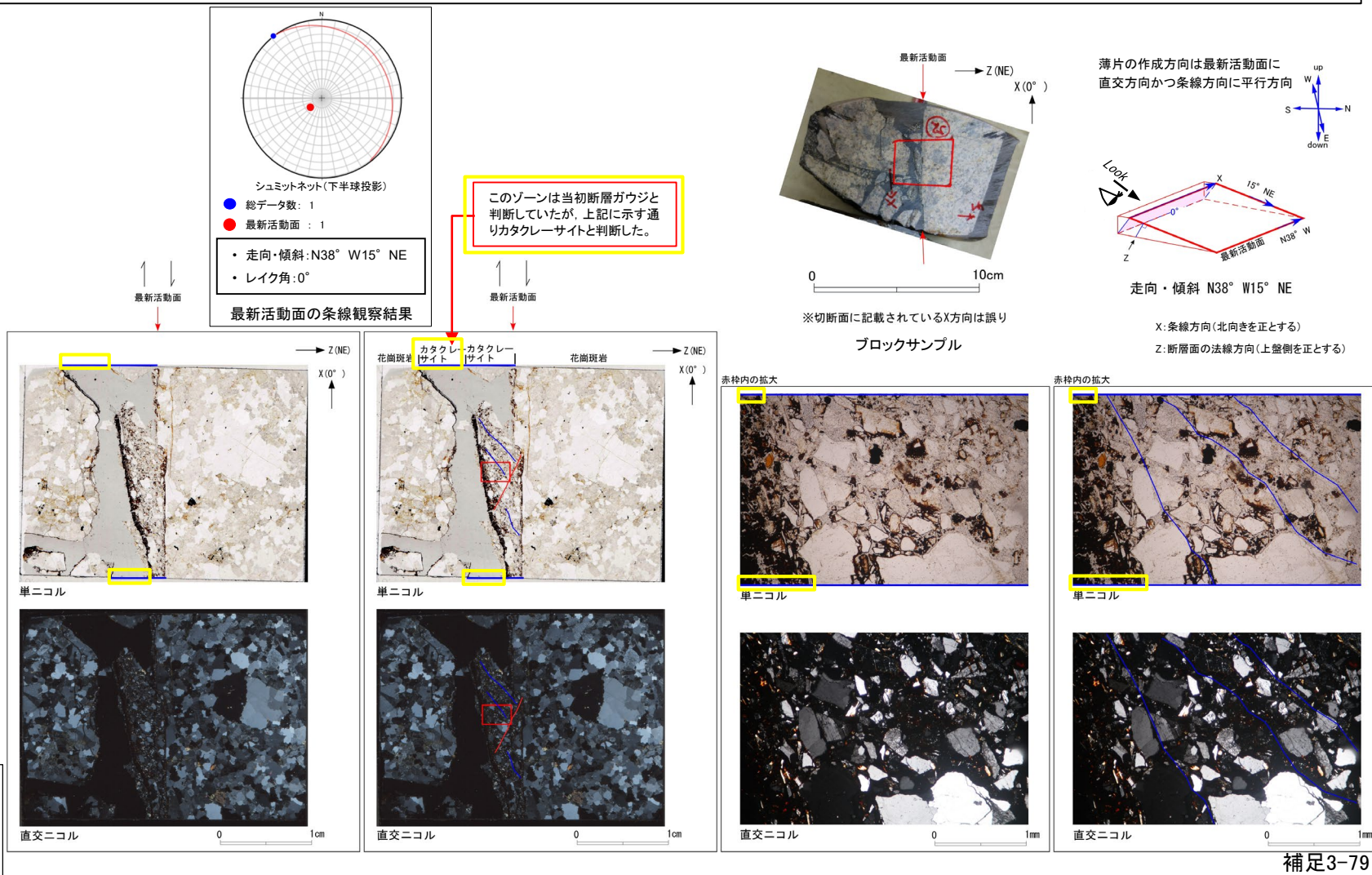
X: 条線方向(下向きを正とする)

Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

- ・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度48.12m)の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
- ・断層岩区分については、カタクレーサイトの左端は全体的に不透明鉱物に汚染されており、状況を判断できないものの、全景写真上端のカタクレーサイトの左端には、粘土鉱物を伴う部分が残っていることから、断層ガウジと判断した。(第833回 机上配布資料1)
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施したところ、断層ガウジと判断していたゾーンには以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - 多様な粒径の岩片が多く認められる。角礫主体である。
 - 組織は隣接するカタクレーサイトと漸移的である。

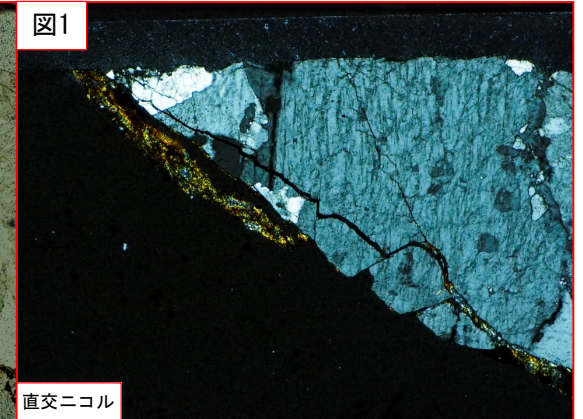
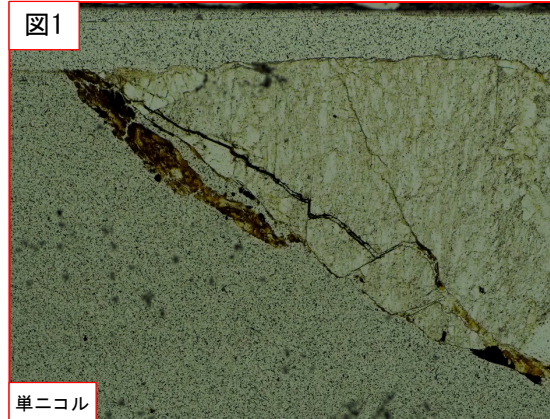


H27-B-2 深度48.08~48.12m 非モデル化破砕部(2/3)

- ・破砕部中央のゾーンには以下の特徴が認められる。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
 - 多様な粒径の岩片が多く認められる。角礫主体である。(図2)

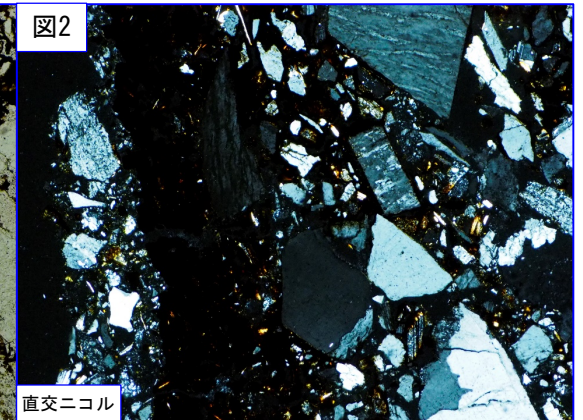
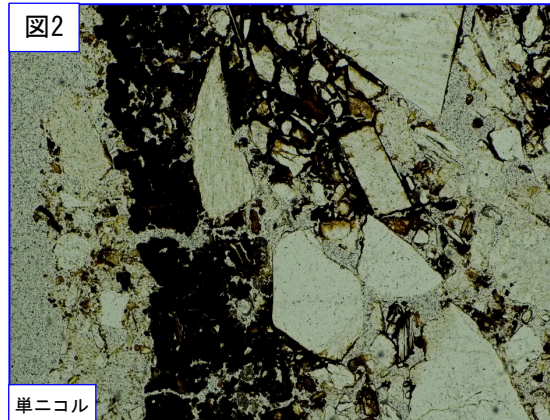
このゾーンは当初断層ガウジと判断していたが、上記に示す通りカタクレーサイトと判断した。

最新活動面



500 μm

500 μm



500 μm

500 μm

- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト

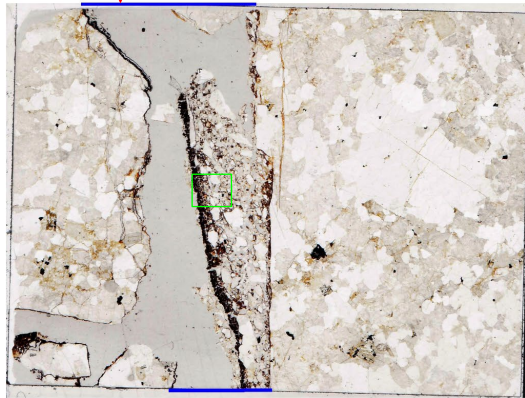
H27-B-2 深度48.08~48.12m 非モデル化破砕部(3/3)

・破砕部中央のゾーンには以下の特徴が認められる。
 ➤ 組織は隣接するカタクレーサイトと漸移的である。(図3)

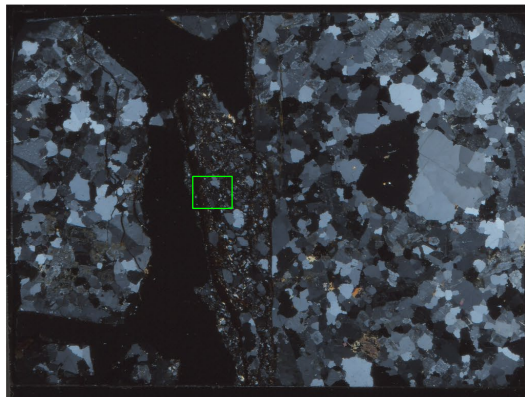
このゾーンは当初断層ガウジと判断していたが、上記に示す通りカタクレーサイトと判断した。

最新活動面

→ Z (NE)
 ↑ X (0°)

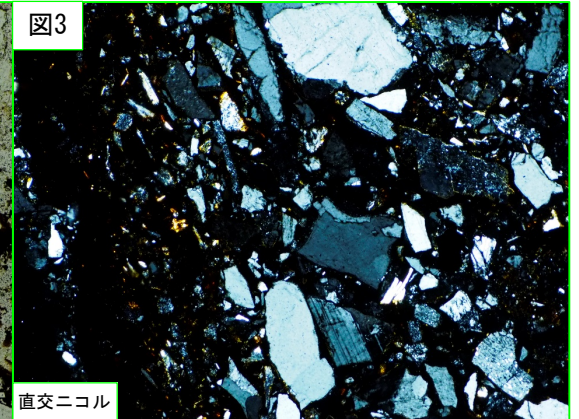
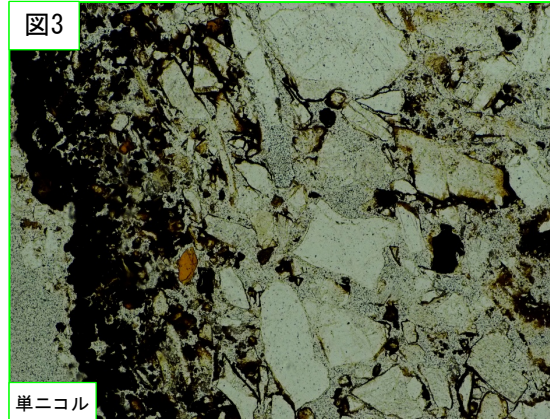


単ニコル



直交ニコル

0 1cm

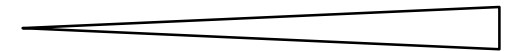
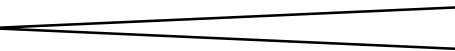


500 μm

500 μm

岩片の粒形が漸移的に変化する。

岩片の粒形が漸移的に変化する。

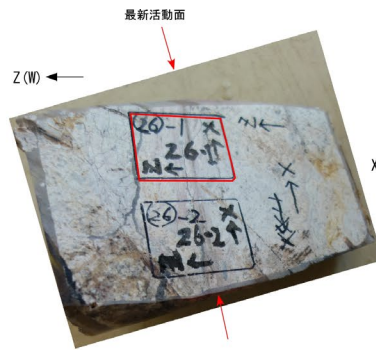
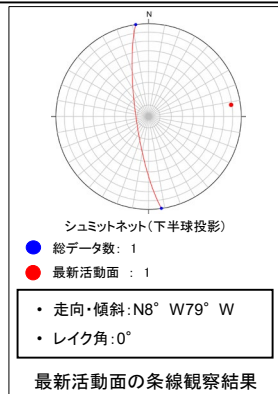


凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト

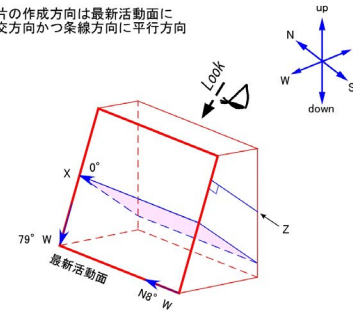
H27-B-2 深度54.72~54.77m 非モデル化破砕部

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度54.77m)の変位センスは、左ずれ成分が卓越する。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



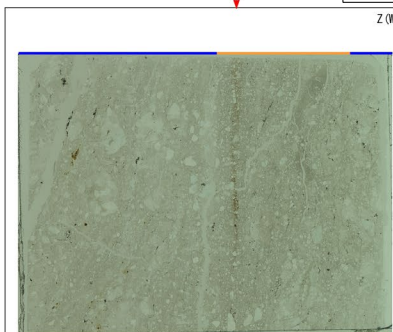
薄片の作成方向は最新活動面に直交方向かつ条線方向に平行方向



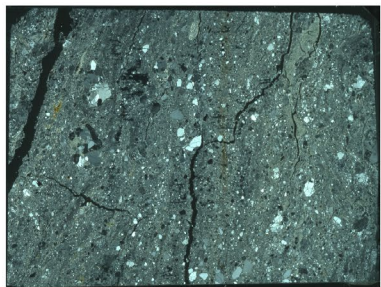
走向・傾斜 N8° W79° W

X: 条線方向 (北向きを正とする)

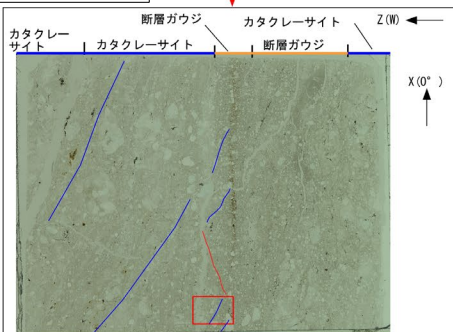
Z: 断層面の法線方向 (上盤側を正とする)



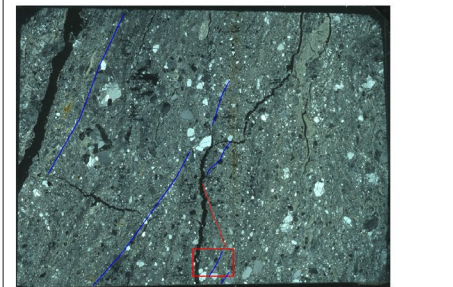
単ニコル



直交ニコル

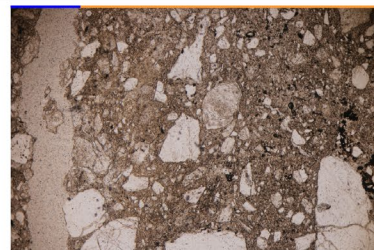


単ニコル

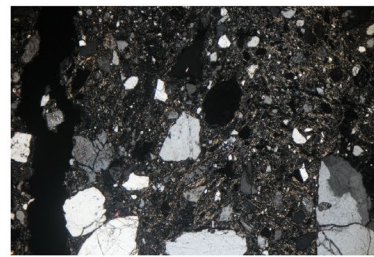


直交ニコル

赤枠内の拡大

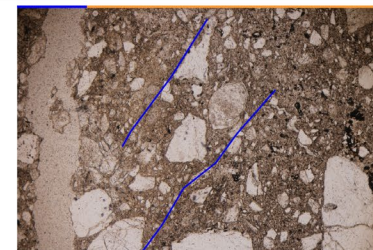


単ニコル

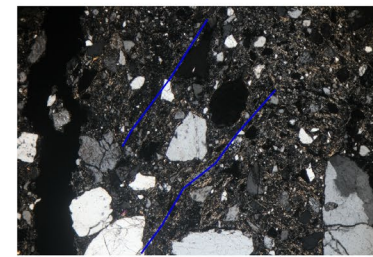


直交ニコル

赤枠内の拡大



単ニコル



直交ニコル

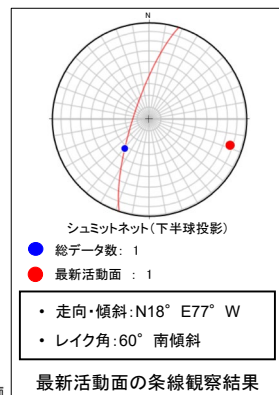
凡例

- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

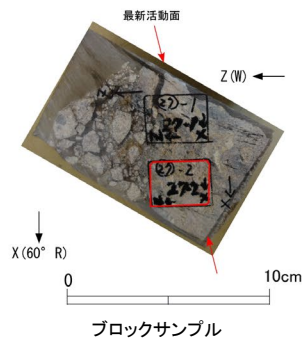
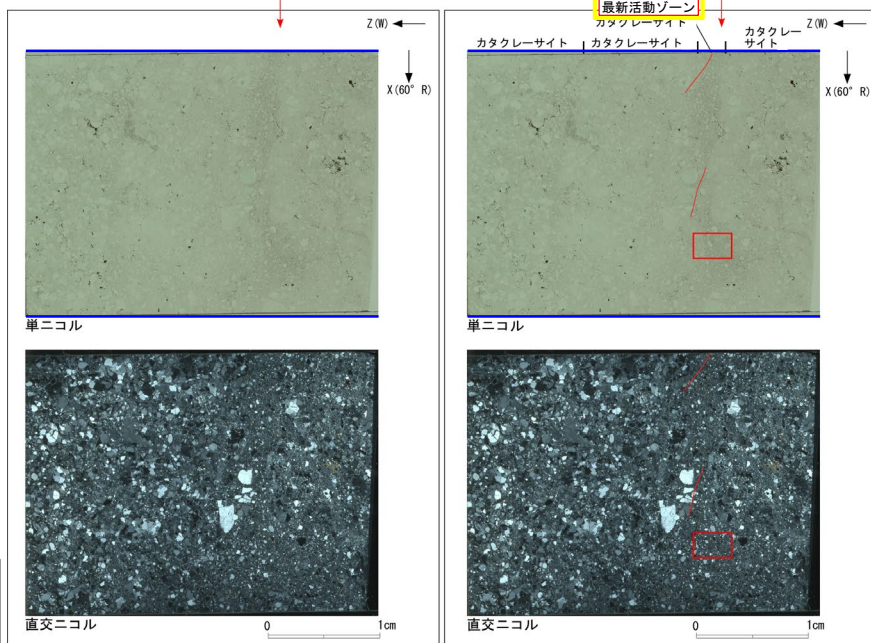
H27-B-2 深度60.26~60.69m 非モデル化破砕部

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度60.58m)の変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。

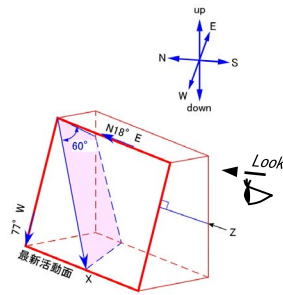
・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が少なく、多様な粒径の岩片・鉱物片を細粒基質中に多く含むことから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



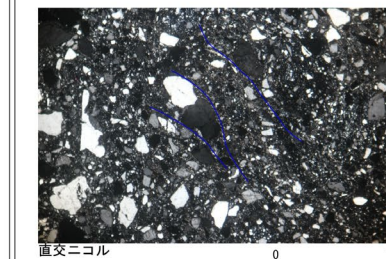
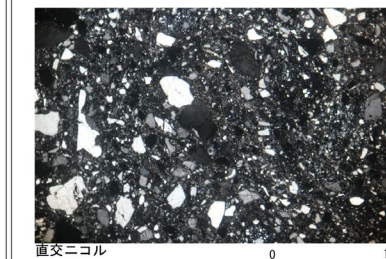
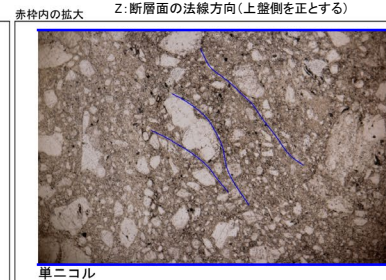
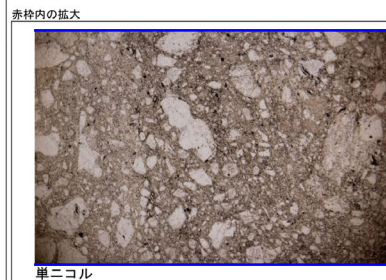
最新活動面の条線観察結果



薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



走向・傾斜 N18° E77° W
X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



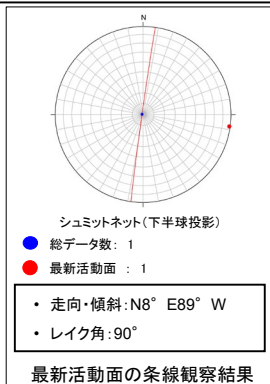
凡例

- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

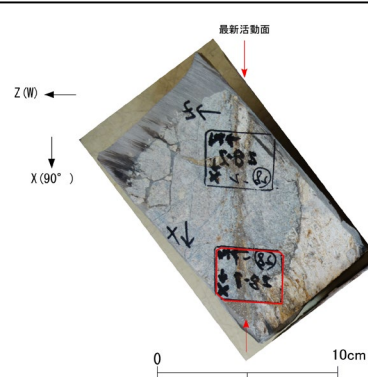
H27-B-2 深度61.29~61.69m D-1破砕帯

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度61.43m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。

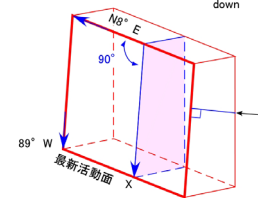
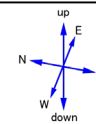
・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



最新活動面



薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

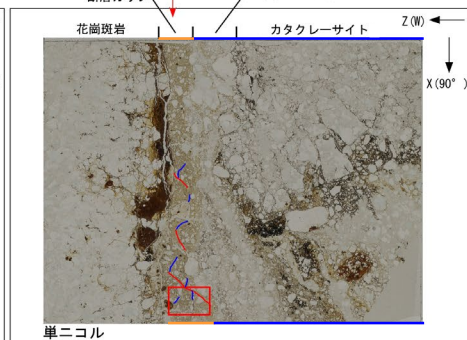
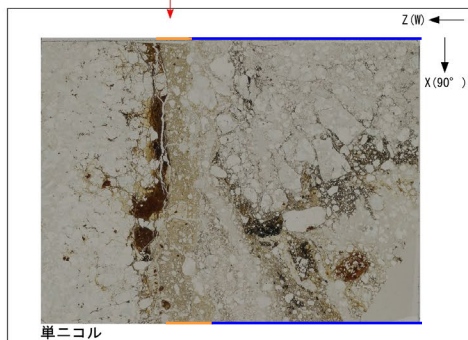


走向・傾斜 N8° E89° W

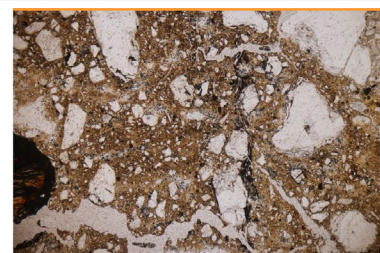
X: 条線方向(下向きを正とする)

Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

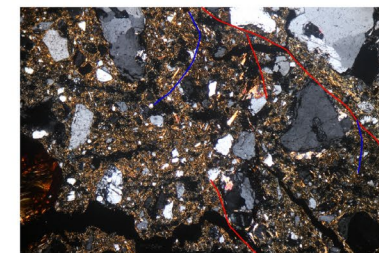
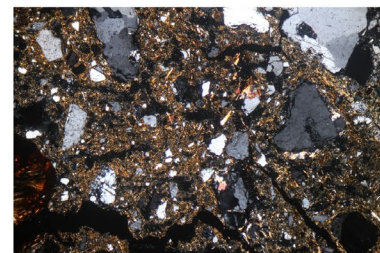
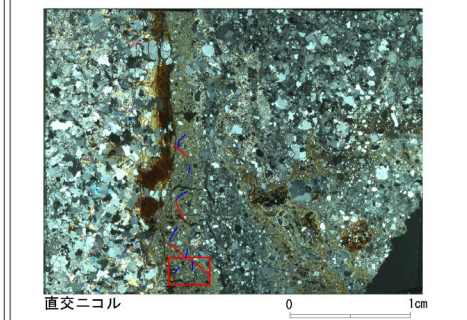
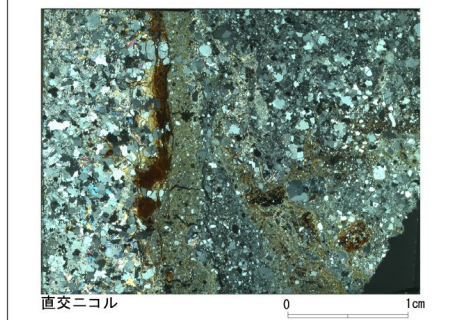
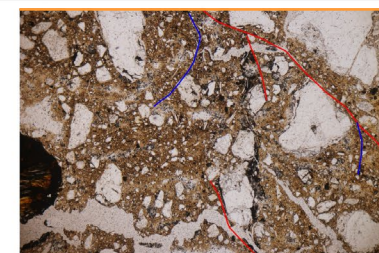
ブロックサンプル



赤枠内の拡大



赤枠内の拡大

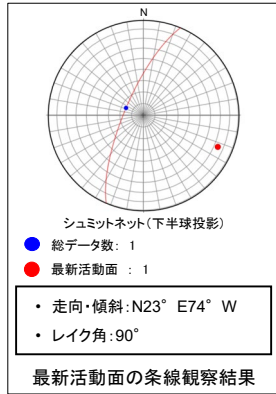


凡例

- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H27-B-2 深度68.02~68.06m 非モデル化破砕部

- H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度68.05m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
- 薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が少なく、多様な粒径の岩片・鉱物片を細粒基質中に多く含むことや、一部に鉱物の粒界を横断する破断面が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部と判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



最新活動面

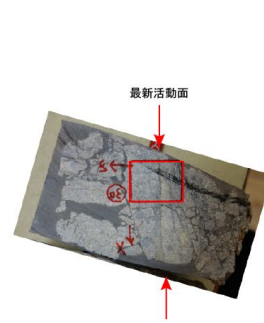
最新活動面の条線観察結果

最新活動面

最新活動ゾーン

カタクレーサイト

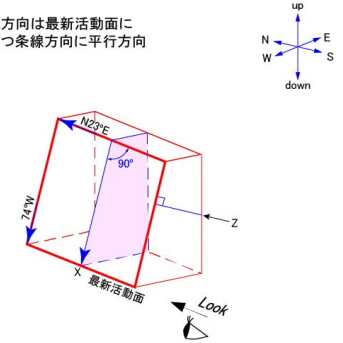
カタクレーサイト



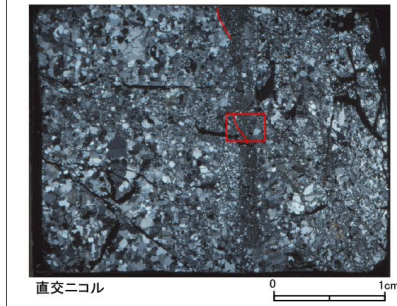
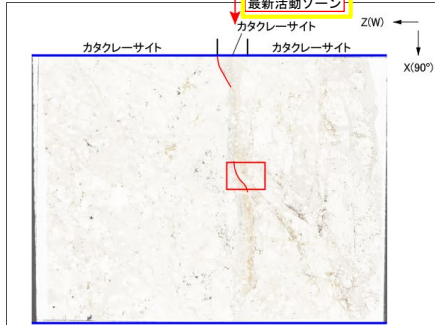
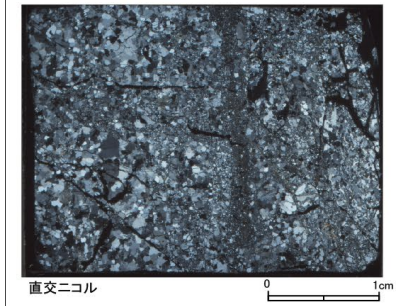
0 10cm
ブロックサンプル

薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

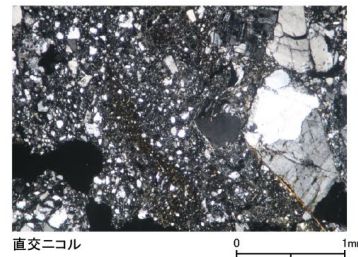
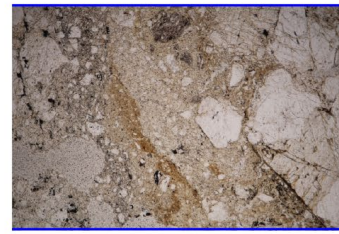
Z(W)
X(90°)



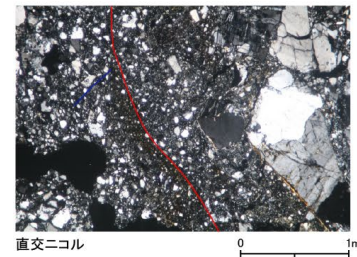
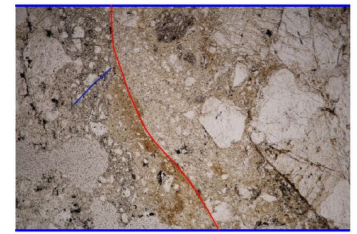
走向・傾斜 N23°E 74°W
 X: 条線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



赤枠内の拡大



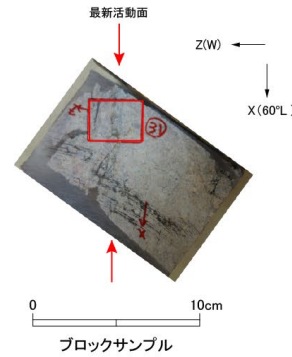
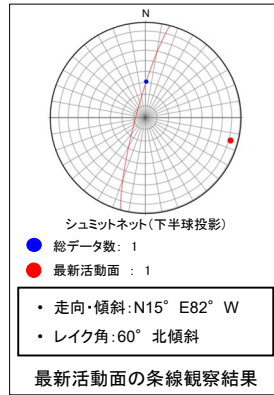
赤枠内の拡大



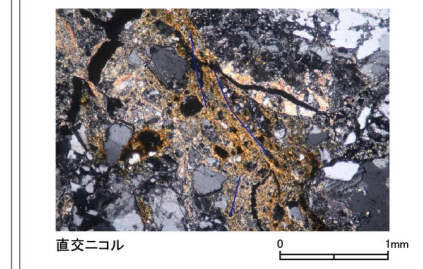
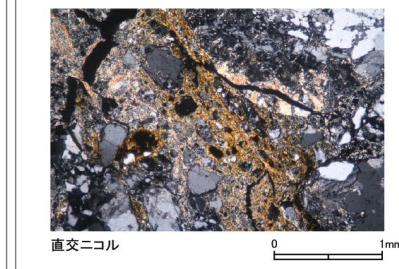
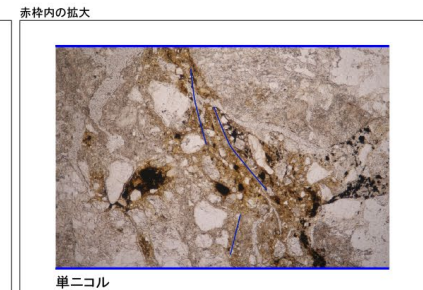
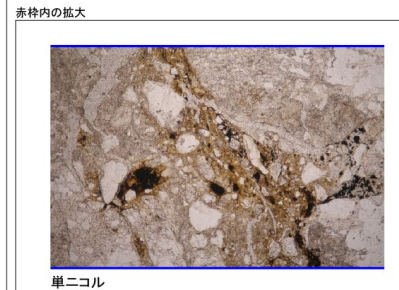
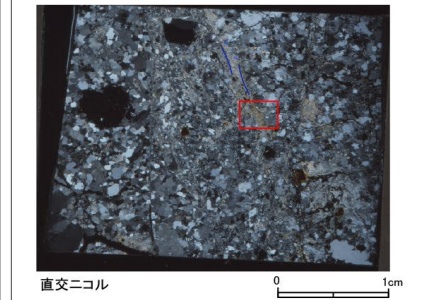
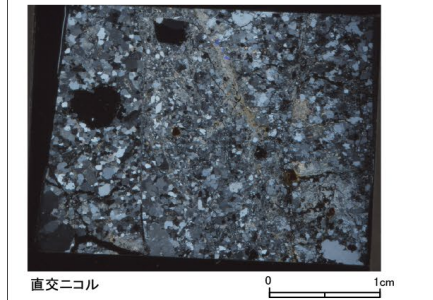
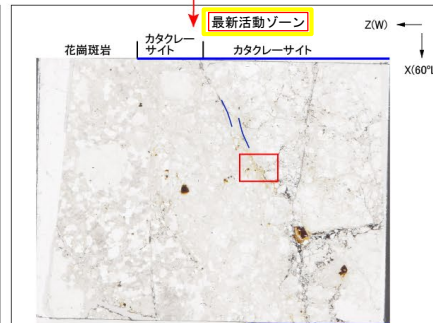
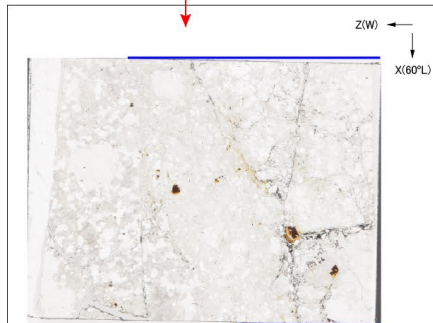
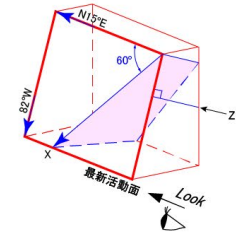
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-2 深度85.58~85.76m 非モデル化破砕部

- H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度85.63m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
- 薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が少なく、多様な粒径の岩片・鉱物片を細粒基質中に多く含むことから、カタクレーサイトのみからなる破砕部と判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

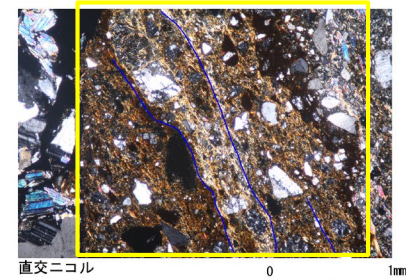
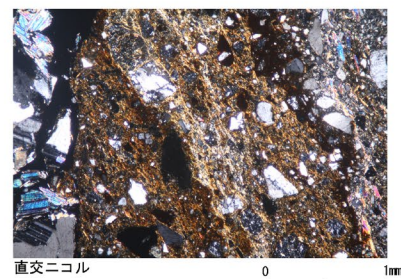
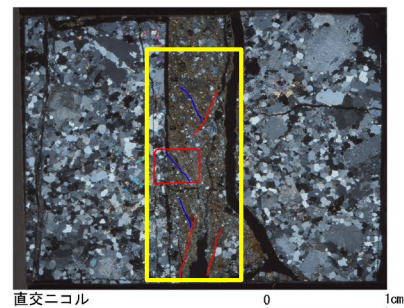
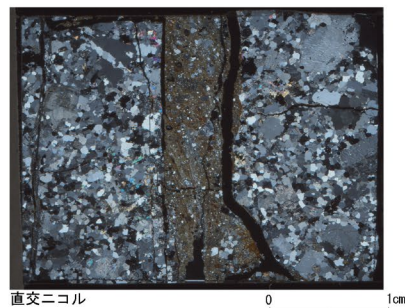
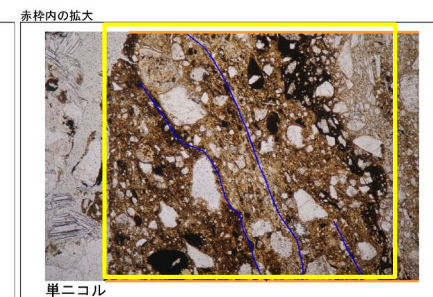
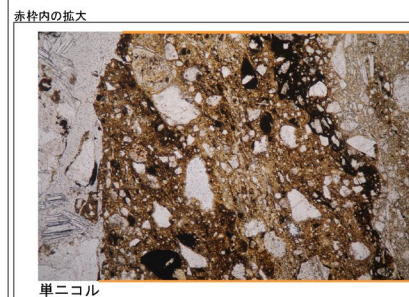
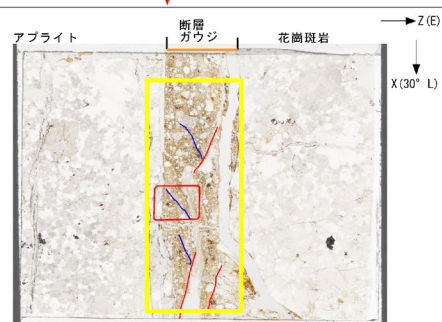
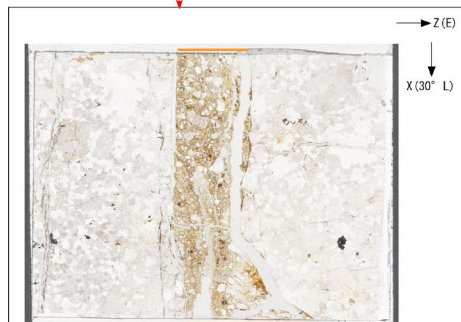
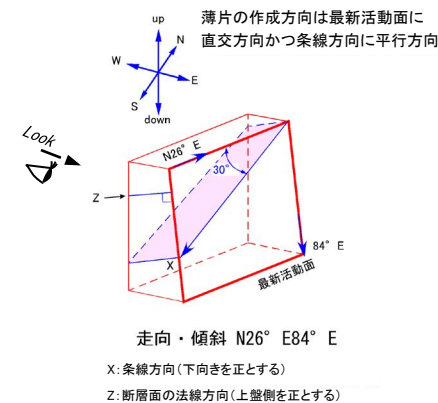
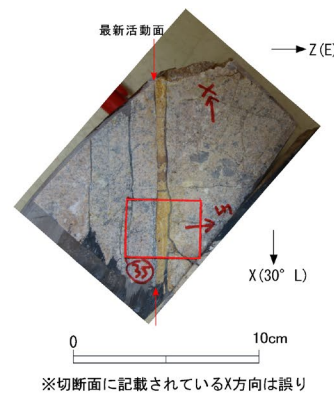
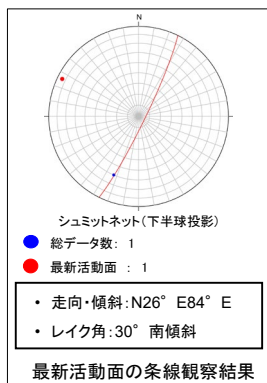


- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-2 深度88.38~88.43m D-41破砕帯

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度88.43m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)

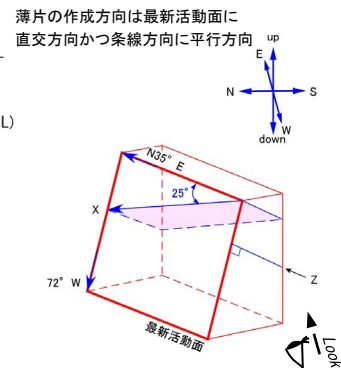
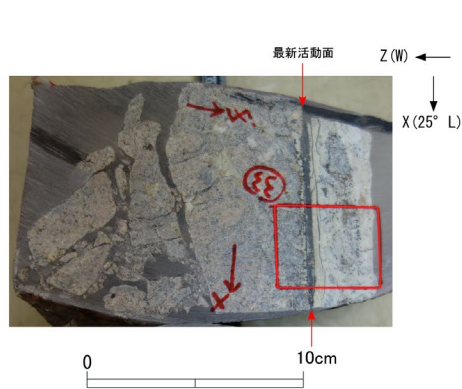
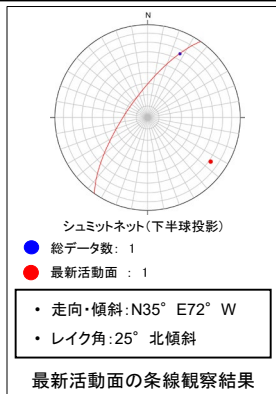


- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-2 深度88.88~88.94m f-b-2-14破砕帯

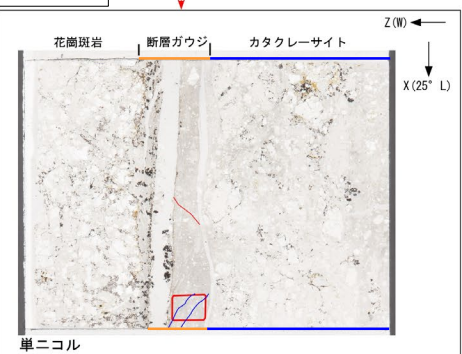
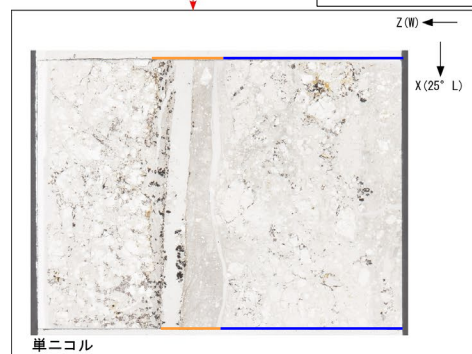
・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度88.91m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)

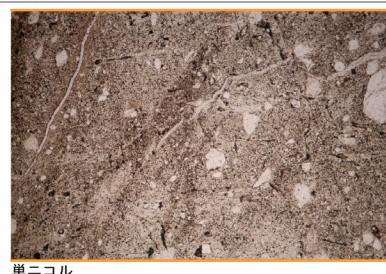


※切断面に記載されているZ方向は誤り

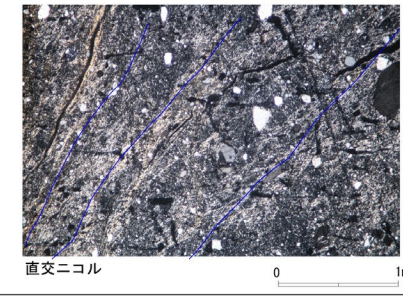
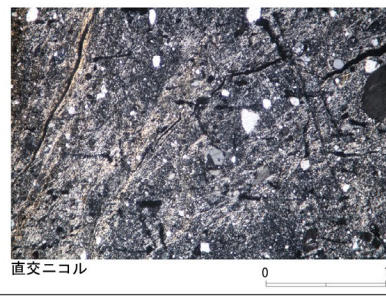
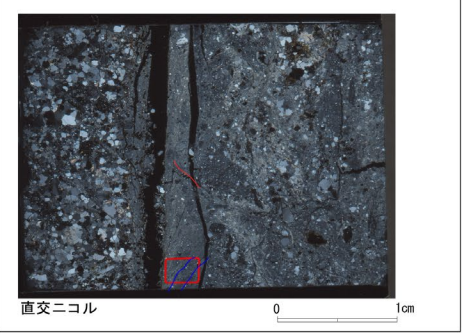
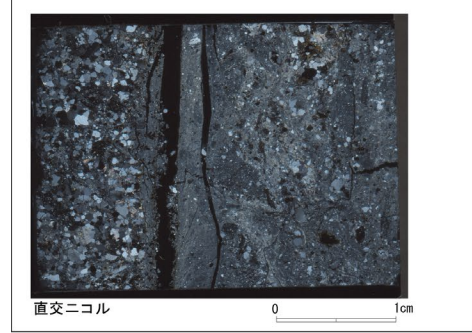
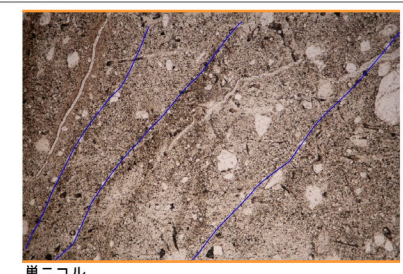
ブロックサンプル



赤枠内の拡大



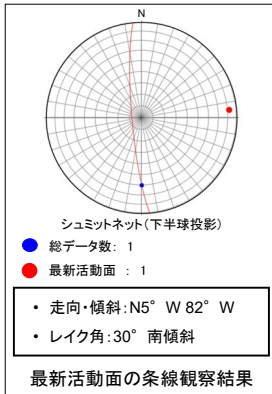
赤枠内の拡大



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

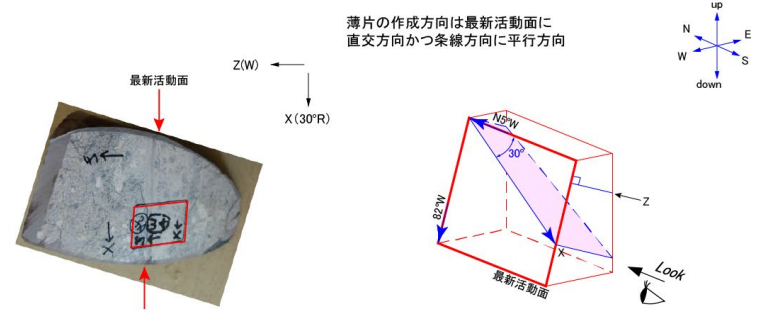
H27-B-2 深度91.69~91.76m 非モデル化破砕部

- H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度91.70m)の変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。
- 薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が少なく、多様な粒径の岩片・鉱物片を細粒基質中に多く含むことから、カタクレーサイトのみからなる破砕部と判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



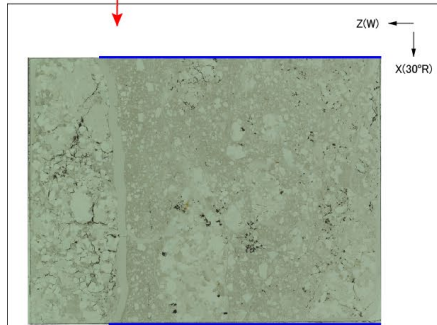
↑ ↓
最新活動面

最新活動面の条線観察結果

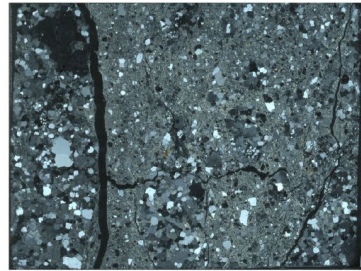


0 10cm
ブロックサンプル

走向・傾斜 N5°W 82°W
X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



単ニコル

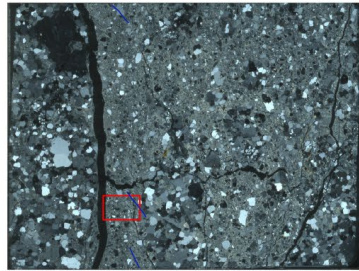


直交ニコル

0 1cm



単ニコル

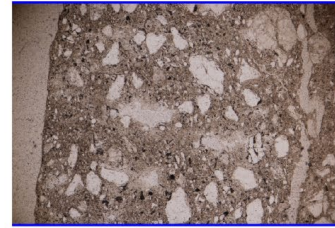


直交ニコル

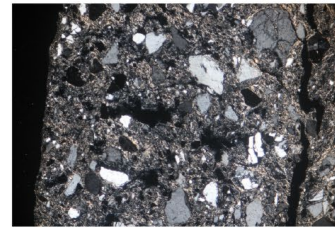
0 1cm

- 凡例
- 断層方ウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

赤枠内の拡大



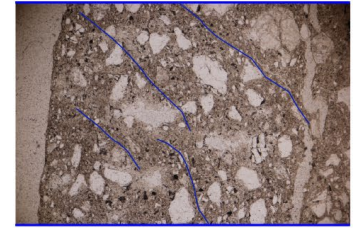
単ニコル



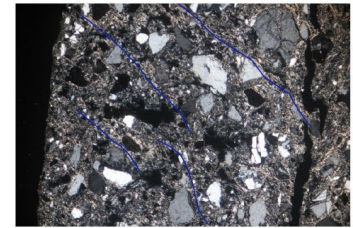
直交ニコル

0 1mm

赤枠内の拡大



単ニコル

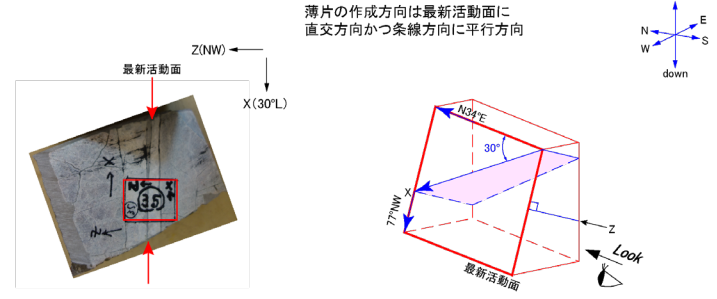
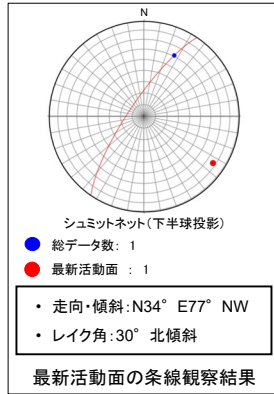


直交ニコル

0 1mm

H27-B-2 深度120.63~120.65m 非モデル化破砕部

- H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度120.65m)の変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。
- 薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が少なく、多様な粒径の岩片・鉱物片を細粒基質中に多く含むことから、カタクレーサイトのみからなる破砕部と判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



0 10cm

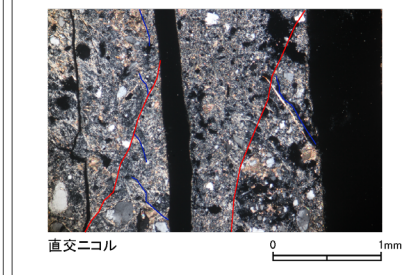
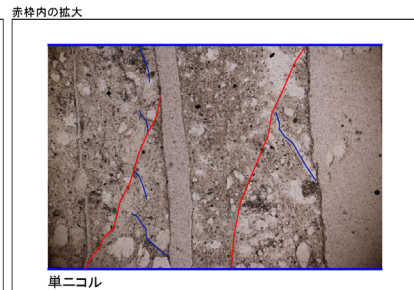
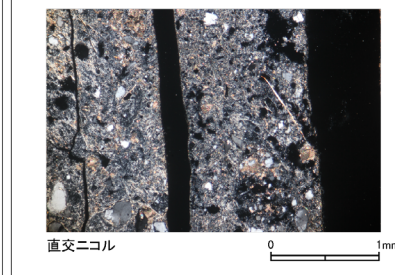
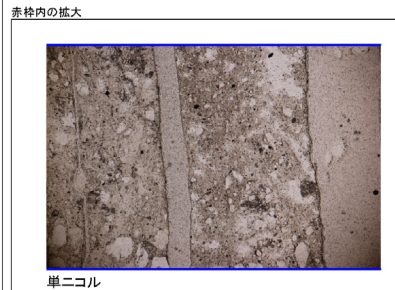
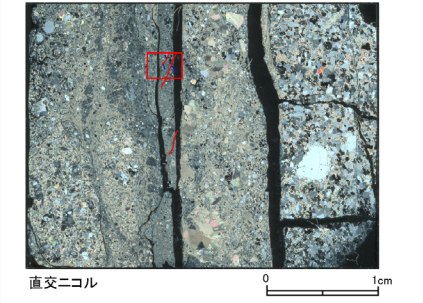
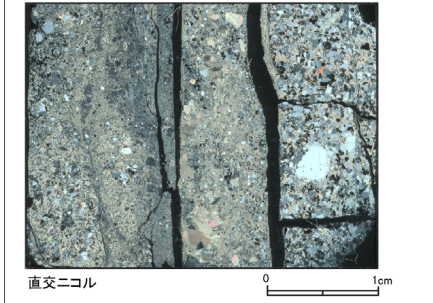
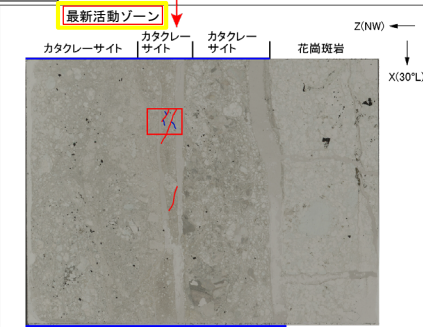
ブロックサンプル

※切断面に記載されているX方向は誤り

走向・傾斜 N34°E 77°NW

X: 条線方向(下向きを正とする)

Z: 断層面の法線方向(上整側を正とする)

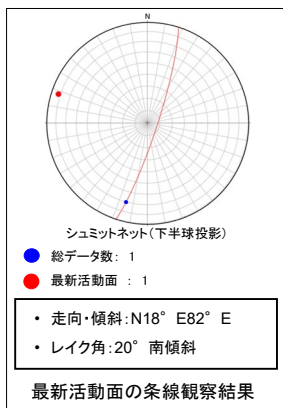


- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-2 深度127.41~127.48m D-42破砕帯

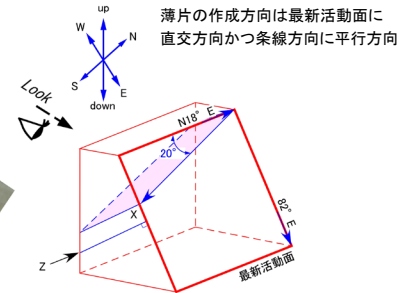
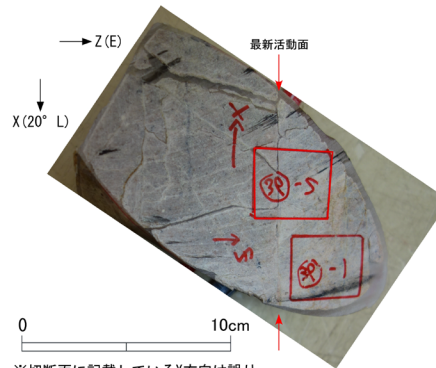
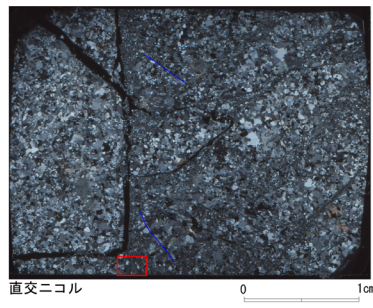
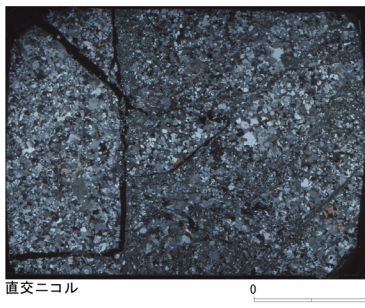
・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度127.41m)の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が少なく、多様な粒径の岩片・鉱物片を細粒基質中に多く含むことから、カタクレーサイトのみからなる破砕部と判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



↑ 最新活動面
↓

↑ 最新活動面
↓

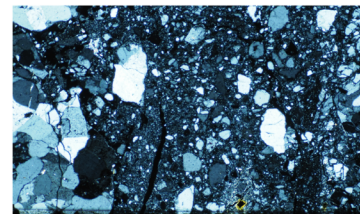
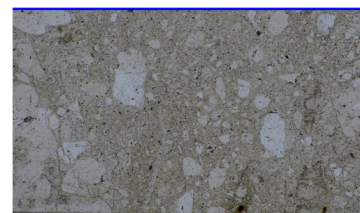


走向・傾斜 N18° E82° E

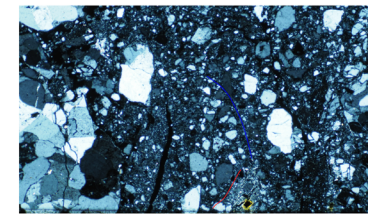
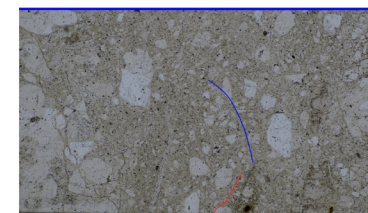
X: 条線方向(下向きを正とする)

Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

赤枠内の拡大



赤枠内の拡大



凡例

- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面